

令和3年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 成果・課題・改善策 |
|---|---|--|-----------------------|--|
| <p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上する。</p> <p>②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会 | <p>タブレットなどのICT機器を活用した授業を受けることで授業理解が深まったと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> | <p>87.9%</p> <p>A</p> | <p>成果：タブレット支給やプロジェクター配置など環境が整ったことで、授業におけるICT機器が活用されており、大多数の生徒がICT機器によって授業理解が深まったと感じている。</p> <p>課題：AL型の授業や生徒の探究活動など、様々な場面におけるICT機器の活用方法を研究開発していくこと。</p> <p>改善策：校内及び校外での先進的な取り組みの研修を行う。具体的には、GIGAスクール校内研修などによって、ICT機器を有効に活用する授業法の研究開発を一層進めていく。</p> <p style="text-align: right;">教務</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> * 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談 | <p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> | <p>75.3%</p> <p>B</p> | <p>成果：習熟度別課題の充実や学習時間調査の実施、また個別面談によって、生徒の主体的に学習しようとする意欲が高まりつつある。</p> <p>課題：約25%生徒が主体的・発展的に学習する習慣が身についていないと考えており、この割合を減少させること。</p> <p>改善策：生徒の学習に対する取り組みをさらに充実させる目的で、習熟度別課題、学習時間調査、個別面談をより充実したものに変わっていく。</p> <p style="text-align: right;">教務</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> * 3年間を見通した指導計画の作成とPDCA実践 * 指導の記録 * 個別面談 | <p>3年次の進路実現を見通した授業等の改善ができたと考える教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> | <p>74.2%</p> <p>C</p> | <p>成果：7割強の教員が、進路実現を意識した授業改善を心がけ、教材研究や授業改善に取り組んでいる。</p> <p>課題：若手教員の更なる授業力向上と、進路指導力の充実。</p> <p>改善策：若手教員対象の校内研修等で、3年間の流れや見通しがわかる研修内容を設定し、特に教職経験が浅い教員に対して指導を行うとともに、中堅・ベテラン教員に対して模試成績の分析などを通じた授業改善を促進していく。</p> <p style="text-align: right;">進路指導</p> |

令和3年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 成果・課題・改善策 |
|---|---|---|-----------------------|---|
| <p>2 人間力を向上できる学校</p> <p>①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。</p> <p>②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。</p> <p>③生徒一人ひとりが地域の人たちと係わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会 | <p>学校行事への取組を通し、思いやりをもって他者と協働することができたと考える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> | <p>93.5%</p> <p>A</p> | <p>成果：昨年度に引き続き、学校行事は縮小傾向であったが、生徒は自分たちのできる範囲で自分たちのできることを考え、積極的に行事に関わろうとしていた。文化祭では各々が感染対策を意識して協働して行動できており、他者を思いやることに繋がっていた。</p> <p>課題：文化祭では役割分担をクラスでしっかり確立させていたため、協働して行動できている生徒は多かったが、体育祭や球技大会で体育委員中心となったときに協働支援してくれる生徒は少ない。</p> <p>改善策：体育祭や球技大会でも体育委員のみの業務とならないよう、クラス会長や代議員などにも役割を分担させ、クラス内協働を意識した場面を設定する。 生徒会</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> * 部活動 * ボランティア活動 | <p>部活動やボランティアなどの課外活動にすすんで取り組み、自ら考え行動しその活動に貢献することができたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> | <p>83.2%</p> <p>A</p> | <p>成果：今年度は昨年度同時期に比べて「できた」と解答した生徒の割合が20%程度減少した。今年度は部活動自体の自粛や制限が多い中で、全体的に「できた」「ある程度できた」の割合は1.8%減に留まっている。</p> <p>課題：部活動は自主的に取り組んでいるが、自ら進んで考え行動してボランティアに取り組んでいる生徒の数は少ない。</p> <p>改善策：部活動に加入していない生徒や活躍の場面が減少している部活動の生徒などからボランティア活動の希望があれば、自ら進んで気軽に学校内外でボランティアできるような環境を整備する。 生徒会</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> * 全校挨拶運動 * 登校指導 * みだしなみ指導 | <p>身だしなみがしっかりとした生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> | <p>84%</p> <p>B</p> | <p>成果：7月身だしなみ検査のチェック項目の不合格が、4月当初の同項目よりも51%減となった(136項目→70項目)。</p> <p>生徒の人数の割合では、84%の生徒(288名)が、7月身だしなみ検査ではしっかりとしていた。</p> <p>課題：身だしなみ指導を継続して必要とする生徒が、8名いる。</p> <p>改善策：担任、学年、生徒指導課、相談課などが各生徒についての情報を共有し、継続的な指導を粘り強く各生徒に施していく。 生徒指導</p> |

令和3年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 成果・課題・改善策 |
|--|---|--|-----------------------|--|
| <p>3 地域と共に成長できる学校</p> <p>①小中学校等との協働研究事業を推進する。</p> | <p>* 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会</p> | <p>地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加した教員の割合が</p> <p>A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満</p> | <p>38.7%</p> <p>D</p> | <p>成果：コロナウィルス感染防止のため、他校での協議会、授業参観、研究授業等に参加できない状況が継続しており、ほとんどが校内のみでの参加のため低い割合となっている。</p> <p>課題：地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加する教員の割合を増加させること。</p> <p>改善策：オンラインでの協議会、授業参観、研究授業等も活用するなど、感染防止を徹底させた様々な取り組みを模索していく。</p> <p style="text-align: right;">教務</p> |
| <p>②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。</p> | <p>* 挨拶運動 * 中高学習交流 * キャリア教育講演会 * 体験入学</p> | <p>小中高を超えた生徒間交流事業や地域的行事に関わり、自己の活動に有用感を感じている生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> | | <p>成果：コロナウィルス感染防止のため、小中学校との交流事業は縮減せざるをえない状況下にある。7月に2年ビジネスコースの生徒4名が輪島中学校でのキャリア教育講演会の講師を務めた。</p> <p>課題：高校と小中学校の間だけでは交流事業や地域的行事の計画を進めることはできない。</p> <p>改善策：コロナ感染の収束を見計らいながら、生徒間交流授業の実施を進めていく。この後、10月16日(土)に中学3年生と保護者を対象とした体験入学を実施予定している。</p> <p style="text-align: right;">総務</p> |
| <p>③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域に誇りを持った人財を育成する。</p> | <p>地域調べ学習と成果発表 朝市出店販売実習 地域ボランティア</p> | <p>課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考える生徒の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> | <p>78.6%</p> <p>C</p> | <p>成果：2年生は地域探究学習を「WAJI活」の名称で、9月22日(水)のポスターセッションに向けて探究活動に取り組んでいる。また、3年総合学科も朝市販売実習を継続し、新商品のアイデアなどを構想している。</p> <p>課題：コロナウィルス感染が拡大する中、地元市民や観光客へのアンケート等のフィールドワークが制限され、当初の調査内容の変更や中止にせざるをえない状況がある。</p> <p>改善策：今後、1年生は「ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業」での地元起業家との意見交換会、工房や工場での聞き取り調査などが予定され、2年生はポスターセッション後も「WAJI活」を継続して深める方向である。3年生総合学科は「課題研究」の発表に向けて準備を進めているので、最終的な数値は確実に上向くと考えられる。</p> <p style="text-align: right;">総務</p> |

令和3年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 成果・課題・改善策 |
|--|---|---|-----------------------|---|
| <p>4. 多忙化改善を積極的に実現する学校</p> <p>①業務の平準化により一層の効率化を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 行事の精選・省力化 * 会議方法の工夫 * 定時退校日の設定 * 時間外勤務時間調査 * 校務分掌の見直し | <p>教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より</p> <p>A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少であった</p> | <p>13.5%</p> <p>A</p> | <p>成果：6～8月の平均と比較したところ昨年度より約7時間（13.5%）減少している。昨年度からのコロナ禍による特殊事情も考慮しなければならないが、ワークライフバランスを意識した生活リズムの改善があると思われる。</p> <p>課題：定時退校日の意義をしっかりと考えるなどの意識改革を進めることで、時間管理、業務の効率化を進めていくこと。</p> <p>改善策：教科内での教材の共有化、部活動の効率的な練習方法の工夫や業務の平準化をさらに進めることで個々の負担軽減を図る。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p> |
| <p>②ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 校内研修の充実 | <p>校内研修により、校務を効率よく進めることができるようになってきたと考える若手教員が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> | <p>50%</p> <p>D</p> | <p>成果：教職としての素養、学習指導、生徒指導、組織マネジメントについて、若手研修を28回行ってきた。若手教員へのアンケート結果では「そう思う」「おおむねそう思う」が50%となり、校務の効率化という観点では成果が実感できていないのが現状である。</p> <p>課題：ICT機器の活用、教材の共有化などの視点からの校務の効率化を進める意識を培う研修が必要である。</p> <p>改善策：ICT機器の活用研修、教科会での情報共有などの機会を増やすことにより、校務の効率化を進める。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p> |
| <p>③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 生徒会、部活動 * 挨拶運動 * HRでの学習指導 * 部活動の計画づくり | <p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 100日以上 B 90日以上 C 80日以上 D 80日未満</p> | <p>16日</p> <p>D</p> | <p>成果：授業日72日間で、16日間（23%）が不注意遅刻「0」の達成日数である。</p> <p>課題：これまでに遅刻3回以上の生徒6名に反省文の提出、生徒指導課指導を行った。また、1、2回遅刻をした生徒の中には、声掛けに配慮を要する生徒もいると思われる。</p> <p>改善策：担任、学年、生徒会課、生徒指導課、相談課が連携し、遅刻なしの啓発活動を継続する。また、生徒会や美術部による啓発運動や啓発ポスターの作成、月間遅刻なしクラス表彰も続ける。</p> <p style="text-align: right;">生徒指導</p> |